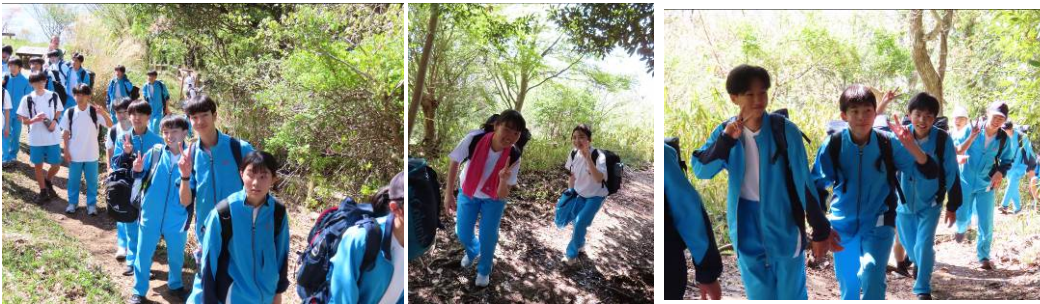


「風はセルリアンブルー」

県立神戸高等学校長
新谷 浩一

○ 六甲宿泊登山を終えて

この学校行事の目的は明確です。①摩耶・六甲縦走により心身を鍛錬するとともに、自然に親しみ、自然の偉大さすばらしさを体験する。②新入生として、本校の伝統と歴史を学び、神戸高校生としての自覚を高める。③規律ある宿舎での生活を通して、団体行動でのマナーや他を思いやる豊かな心を育てる。④友人や先生・先輩たちと寝食をともにして連帯感を高め、人間関係を深める。81 回生の皆さん、達成できましたか。



朝8時に鶴甲公園に集合し、まずは皆でアスレチックパークまで一気に登りました。結構狭く、急な登りもまじえながらの5.5 km。それでも笑顔溢れるスタートでした。

アスレチックパークにて追いかけてきてくれた79回生、80回生と合流しました。先輩たちが企画してくれた歓迎行事の始まりです。合唱部による歌唱指導あり、応援団による応援指導あり、と盛り沢山の内容でしたが、前日の雨が嘘のようにあがった空の下、セルリアンブルーのジャージが躍動する様は魅力的でした。

ちなみにセルリアンの語源は「空色」を意味するラテン語だとか。わずかに緑色がかかったフォルムはどこまでも澄み渡る空とハーモニーを奏でているようでした。



昼食を終え、先輩たちが下山したあと、81 回生はまた山路へ。5.4 kmを上り下りしながら宿泊先の神戸市立自然の家へ。夕食・入浴を済ませた後は体育館での全校集会です。最初のメニューは講師講話。3人の神高生の先輩方が三者三様のお話をしてくださいました。

卒業したての78 回生宮本先輩の話で印象に残ったのは「メンタルを強く持とう」という話でした。ご自身の大学受験を引き合いにだしての「何事も負けると思ったら負ける。勝てるかも…と思わないと、勝てるものも勝てないから」との話は説得力がありました。また同じく78 回生の野田先輩は学年団の先生との繋がりについて話してくれ、「信頼したら、本気で向き合ってくれる先生方に助けられました」との話。野田さんと澁川先生や清水先生とのやりとりには実にほのぼのしたものを感じましたね。

また、75 回生の柘田先輩の話はひとつひとつ頷くことが多く、学びの多い時間でした。特に「全力で楽しんで、全力で考えて」とのメッセージは言葉に重みがありました。大学合格をゴールと考えるのではなく、常にその先に目的意識をもって行動してきたというご自身の歩みに自信を持っているからですね。

さらに、神戸高校で3年間を過ごせる価値を、①生徒が主体的に動くことを学校全体で支えていること、②そのため自分たちの力で物事を作り上げる楽しさを皆で味わえることと簡潔にまとめてくださいました。そう言えば彼の自治会長時代に製作した神戸高校プロモーションビデオ、とても素晴らしい出来です。必見です。

そのあとは小池先生が発案してくれたクラス対抗スタンプ大会。校歌に続いて、既にお馴染みとなった『神高賛歌』をテーマに熱い戦いを見せてくれました。このあたりで目的の①②③は達成できている感もあるほど、クラスのまとまりが見られました。



ちなみに、どのクラスもいいパフォーマンスを見せてくれましたが、私がより高得点をつけたのは1組、5組、9組でした。小池先生の熱い思いに、熱く応えてくれた皆さんに感謝です。



さあ、ひと晩あけて、翌日は残りの24km足らずの道のり。一見茶屋まで登り、下り道に入ればあとは宝塚に向けて降りるだけです。2日間で全行程は約35km。学年主任の澤田先生から「校長先生は当然、生徒とともに全行程を歩くもの」と決めていただいた私は、生徒の皆さんの笑い声に耳を傾けたり、時に話しかけられたりしながら楽しく、歩かせてもらいました。そうなのです。私は山に登るのが好きなのです。

もう10年以上も前に上司の方から「一緒に六甲山に登らないか」と誘われて始めた山登り。1人きりで修行僧のように登る日もありますが、私には7年前に立ち上げた『山登りの会』の仲間がいます。「登りますか?」と訊ねると、総勢40人以上いるメンバーのうち誰かが、お付き合いですてくれます。ただ一緒に登り、一緒に下り、銭湯で汗を流したあとは飲み食いを楽しみながら、ただ語り合う。それだけのことがやたらと楽しくて、止められないのです。概ね月に1度の楽しみな休日の過ごし方です。



さて、先頭の私は常に1組と2組の間を繋ぐことにさえ気を配ればよかったです。本格的な登山家でもある繁戸先生、桑田先生、宗先生は81回生の長く伸びた列全体に気を配りながら歩いてくれました。



また、離れてしまった生徒のために行きつ戻りつした大中先生をはじめ、多くの先生方がともに歩を進めてくれました。そんなご配慮のお蔭で、多くの81回生が宝塚のゴールに辿り着くことができました。

思い出深い行事になったことと思います。

さて、最後になりましたが、81回生の入学準備段階からこの日に至るまで、様々な場面で蔭となり日向となり心を尽くしてくれた世話係の3年生諸君と、山道のリード役として常に安全面を支えてくれた山岳部員、そして個人的には2日間の登山をともにさせていただいた1組の皆さんに心から感謝をして、この通信を終えたいと思います。皆さん、素敵な時間を本当にありがとうございました。

